



特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)は  
仮設住宅や民間借り上げ住宅などに避難されているみなさんを支援する  
【生活支援相談員】などの復興支援に取り組む人たちを応援しています

## 2011

仮設住宅への入居が始まる時期に合わせ、福島県内の30の社会福祉協議会に生活支援相談員が採用され、活動をはじめました。

JVCAでは福島県社協、全社協と協働で、新任者向けの研修プログラムを作成しました。

8月の初回を皮切りに3日間×5クルールの研修を開催し、170人が受講しました。

また、各社協の相談員チームをまとめる「チーフ」や「主任」相談員に向けて、リーダーシップや合意形成をテーマにした研修を実施しました。

研修プログラムの企画・開発

学習会や研修への講師派遣

個別相談、スーパーバイズ

ボランティア活動の促進

コーディネーション力の向上

## 2012

訪問活動を重ねるにつれ多くのニーズが見えてきました。そこで、相談員が抱える悩みや困りごとを共有し、支援する上で必要な知識やスキルなどを習得するための場としてスキルアップ研修を実施し、課題解決に向けて知恵を出し合いました。

相談員を途中採用する社協も少なくなく、集合研修だけでは限界があり、それぞれの社協のなかで基礎的な研修が行えるように、社協職員やNPOのメンバーとの協働で『生活支援相談員ハンドブック』を作成し、福島県社協のご協力ですべての相談員に配付しました。

また、大学生たちの災害復興のネットワークへのオブザーバー参加や住民向けの講演会の開催など、福島県社協と連携しながら、これまでJVCAがたちかかってきた人材育成のノウハウを活かしてネットワーク運営や支援活動へのサポートを行いました。



## 2013

福島県内の復興状況や生活支援ニーズもエリアによって少しずつ違いがみられ、市町村によって相談員のニーズもさまざまになってきました。そこで、県内の集合型研修への協力をを行いながら、並行して個別の研修ニーズを掘り起こすために「アウトリーチ型」の活動に切り替えました。

県内の社協やNPOなどを訪問させていただきながら話をうかがい、必要な研修や交流の場を提案しています。浪江町社協の相談員研修や田村市の復興応援隊等への研修、いわき市社協の相談員活動の振り返りのお手伝い等、必要なところに、必要なときに、伺えるように心がけ、一緒に考え、組立て、進めるスタイルで学びと振り返りの場をつくっています。

さらに、2/13にはボランティアコーディネーション力3級検定を福島で初めて開催します。